

～ ここにも遺跡 ～

古代と未来の共存

元岡・桑原遺跡群

九州大学の伊都キャンパスへの移転前に行われていた元岡・桑原遺跡群の発掘調査が終わって、5年ほど経ちます。移転事業が進み、遺跡群の周囲はすっかり様変わりしています。

現在の学生たちが生まれた頃の平成8年に発掘調査が始まり、奈良時代の大規模な製鉄炉群の発見によって、ここで鉄や鉄製品を大量に作っていたことがわかりました。その後も発掘調査によって前方後円墳や古代の集落・倉庫群、役所の存在を彷彿とさせる木簡など貴重な品々が発見されています。平成23年に出土した「庚寅銘大刀」は国内の古墳から発見された2例目の金象嵌銘入り刀剣として注目され、令和元年7月に国の重要文化財に指定されました。

重要な遺構は埋め戻され、最先端の研究施設が建つキャンパスの中に保存されています。キャンパス内を回ると、古代の営みと最先端の知識の両方に触れることができます。開発と保存のはざまで揺れる遺跡が多い中で、元岡・桑原遺跡群は開発と遺跡保

護の共存が可能です。あることを示しています。



元岡古墳群G-6号墳前での解説
埋蔵文化財センター主催
見学ツアー

12・1月のイベント情報

12月

7日 第5回埋蔵文化財センター考古学講座

「庚寅銘大刀を生んだ時代」

講師：広瀬 和雄氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）

21日 ウシサマと御万歳 ※詳細は表紙に載せています。

1月

1日 宇田川原豊年獅子舞（市指定無形民俗文化財）

場所：宇多神社（西区宇田川原180）

1日 今宿青木獅子舞（市指定無形民俗文化財）

場所：八雲神社（西区今宿上ノ原416）

2日 金隈の鷹の水（市指定無形民俗文化財）

場所：宝満宮（博多区金の隈1-8-1）ほか

7日 今宿上町天満宮鬼すべ行事（市指定無形民俗文化財）

場所：今宿上町天満宮（西区今宿3-14-43）

12日 石釜のトビトビ（市指定無形民俗文化財）

場所：石釜公民館（早良区石釜738）周辺

12日 志賀海神社歩射祭（県指定無形民俗文化財）

場所：志賀海神社（東区志賀島877）

12日 今津十一日まつり（市指定無形民俗文化財）

場所：登志神社（西区今津1570）

13日 唐泊の御万歳（市指定無形民俗文化財）

場所：大歳神社（西区宮浦281）ほか

18日 第6回埋蔵文化財センター考古学講座

「新聞記者の目から歴史を紐解く」

講師：古賀 英毅氏（西日本新聞社）

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL: 092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL: 092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL: 092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL: 092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



令和元年度企画展示開催中

令和2年1月26日(日)まで

「福岡市のあゆみと私たちの歴史—130年間で発掘調査2700回！—」

場所：埋蔵文化財センター 第3展示室

（博多区井相田2-1-94） ※月曜、12/28～1/4休館

歴史の風 ふくおか文化財だより

Vol.24 2019年12月号

映像で見る福岡市の年末年始～上映会～



唐泊のどんたくと御万歳

— ウシサマと御万歳 —

現代に生きる人々が一年の暮らしの中で、家庭・地域で行う行事や民俗芸能は、“形の無い”文化財で、無形民俗文化財と呼ばれます。こうした地域の文化財を後世に伝えていくため、平成18年度から平成28年度までの間に地域の伝統行事等の様子を映像として29本記録し、市内の図書館で視聴することができます。

今回、これらの映像を市民に広く公開し、地域の伝統文化に対する関心を高めてもらおうと、下記のとおり福岡市総合図書館映像ホールシネラで記録映像の上映会を行います。上映会では九州産業大学教授須永敬さんによる解説もあります。

師走の一日、福岡市の昔ながらの年末年始をシネラで体感してみませんか？

日時 令和元年12月21日（土）14時開演 16時終了予定

※13時30分開場

場所 福岡市総合図書館 映像ホールシネラ

（早良区百道浜3-7-1）

参加 入場無料、当日先着順。（定員240名）

※未就学児は必ず保護者同伴のうえ、入場ください。

上映映像 「ウシサマ—家々の収穫祭—」（2014年制作）

「唐泊のどんたくと御万歳」（2011年制作）

主催 福岡市文化財活性化実行委員会

問合せ 経済観光文化局 文化財活用課（事務局）

電話 092-711-4862, FAX 092-733-5537

～ 櫓を解体する～

歴史的建造物の保存

福岡城は全長約3kmにわたる壮大な石垣が特徴の一つですが、築城以後400年余りの年月がたち、変化がみられる石垣が何か所か確認されています。そのうち修理が必要と判定されたのが祈念櫓^{きねんやぐら}の建つ石垣です。石垣修理は石垣を一度解体して積み直す必要があり、工事の前に櫓を解体する必要があります。

祈念櫓は大正7年まで城内にありましたが、城外へ移築され、昭和58年に現在地に建てられた歴史的建造物です。祈念櫓は福岡県指定文化財であるため、解体にあたっては歴史的建造物に習熟した職人による細心の注意を払った作業が求められます。



解体前の祈念櫓

解体工事は、今年の5月に着手し、建物全体の詳細な現況調査を行ったのち、瓦、屋根材、梁、軸木といった各部材ごとに位置を記録しながら慎重に解体しました。解体後、部材は各部材ごとに適切な管理を行い、保存しています。



保存された祈念櫓部材

～文化財の保存活用に関する基本方針～

歴史の風を体感 – 博多川スカイランタン–

福岡市が今年3月に策定した「文化財の保存活用に関する基本方針(※)」では、地域の子どもから大人までが交流できる文化財を活用した体験イベントを実施し、地域振興につなげることを目標としています。

秋は、歴史や文化財に触れられる多彩なイベントが目白押しとなるシーズンです。今年は、博多のにぎわいづくりのための新たな試みとして、10月4日(金)に、「博多川スカイランタン」を開催しました。

中洲の東側を流れる博多川。ここは、約1000年前から国際貿易を担う我が国最大の港があったとされる一帯です。博多を発掘すると、交易によりもたらされた物資が大量に出土します。平成29年には、その代表的なものが「福岡県博多遺跡群出土品」として国の重要文化財に指定されました。「博多川スカイランタン」は、多くの市民や観光客の皆さんに博多の港湾都市としてのほのかな歴史を、知っていただく機会となるよう企画したものです。ランタンに貼る願い事を書きこむシートも、出土する陶磁器の模様でデザインしました。

ランタンが博多の夜空にたなびくさまに、海を渡る船の帆をはらませた歴史の風を感じませんか。



当日の「博多川スカイランタン」の様子

※基本方針を福岡市のホームページに掲載しています。
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/bunsei/shisei/bunkazai.html>

～新たなお宝発見！！～

埋蔵文化財センターの『第二の発掘調査』

福岡市内では日々、各所で遺跡の発掘調査が行われていますが、埋蔵文化財センターでも発掘調査を行っています。といっても、地面を掘る発掘ではありません。既に報告書に掲載された出土品が、その後の研究の進展によって新たな価値が見いだされたり、様々な事情で報告書に掲載されなかった出土品が実は貴重なお宝だったり、そんな出土品に関する新たな価値の発見を埋蔵文化財センターでは、「第二の発掘調査」と呼んでいます。そんな「第二の発掘調査」の成果の一端を紹介します。



蓋の表 (つまみ)



蓋の裏

第二の発掘調査で用途が判明した真鍮坩堝の蓋
(博多遺跡群出土/16世紀後半)

上の写真は、博多遺跡群で出土した16世紀の土器です。直径は5cmほどの小さな土器で、中央につまみが付いています。平成6年に出土し、報告書にも掲載されましたが、当時は何に使われたものか分かりませんでした。研究の進展と、埋蔵文化財センターで新たにに行った科学分析によって、真鍮^{しんちゅう}を溶かした容器^{るつぼ}(坩堝)の蓋であることが分かりました。真鍮は、5円玉に使われている金属で金色をしていることから、古くは金の代用品として使われていた金属です。日本でいつから加工が行われていたかはまだ明らかではありません。博多での真鍮坩堝蓋の発見は、金属技術史の解明に大きな手がかりを与えるものになっています。

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

